

## ブリーフセラピーの学びを どのように臨床現場で 活かしていくのか？

日時: 2016年9月4日(日) 13:00~15:00  
会場: パシフィコ横浜 421会議室 (定員54名)  
日本心理臨床学会第35回大会秋季大会 自主シンポジウム

2

## 役割

- 相模健人(愛媛大学)  
– 企画者/司会者/話題提供者/指定討論者
- 増尾佐緒里(神戸赤十字病院心療内科)  
– 話題提供者
- 石丸雅貴(アキクリニック 臨床心理士)  
– 話題提供者
- 長谷川明弘(東洋英和女学院大学)  
– 話題提供者/指定討論者

3

## 企画趣旨

- ブリーフセラピーを学んだ大学院生が修了後に、それぞれの現場でどのようにその知識や技法を活かしているのか、特に初心者の頃に遭遇した困難を乗り越えながら、そこから何を学び、自らの心理臨床家のキャリアに活かしていったかについて語り合う。

4

## 企画趣旨

- 経験年数5年前後の初心者、10年前後の中堅が前述の経験について語り、指導者がコメントしていくことにより、ブリーフセラピーの学びがどのように深められていくのかを明らかにしたい。

5

## 話題提供

- 相模健人(愛媛大学)
- 増尾佐緒里(神戸赤十字病院心療内科)
- 石丸雅貴(アキクリニック 臨床心理士)  
– 「クライアントが専門家」をどう考えるか？
- 長谷川明弘(東洋英和女学院大学)

6

## 指定討論

- 相模健人(愛媛大学)
- 長谷川明弘(東洋英和女学院大学)

7

## タイムスケジュール予定

- 13:00～13:05 シンポジウム趣旨説明
- 13:05～13:25 話題提供(お一人10分×2)
  - ブリーフセラピーの教育について大事と考えていること
- 13:25～14:25 話題提供(お一人30分×2)
  - 初心者の頃に遭遇した困難を乗り越えながら、そこから何を学び、自らの心理臨床家のキャリアに活かしていったか
- 14:25～14:45 指定討論(お一人10分×2)
- 14:45-15:00 質疑応答(フロアから含めて)
- 15:00 終了

8

## ブリーフセラピーを伝えること

—創意工夫を大切に—

日時:2016年9月4日(日)13:00～15:00

会場:パシフィコ横浜 421会議室(定員54名)

日本心理臨床学会第35回大会秋季大会 自主シンポジウム

ブリーフセラピーの学びをどのように臨床現場で活かしていくのか?

10

## 本日の流れ

- 「知識・実践＋哲学」の伝達の工夫
  - 養成形式の違い
  - 対人支援職の姿勢(心構え)との共通性
  - 技法の習得には、哲学や態度を包括した理解が求められる
  - 試行錯誤体験創造学習スタイル
- 臨場感を伴う研修・訓練
- 指定討論:守・破・離

11

## 師から学ぶこと、伝達すること

—はじめに—

- 師から学んだことを翻訳し、次の世代に引き継いで行く行為はどんなことか
  - ブリーフセラピー(対人支援職)の場合の知識と技術・技能の継承の実態
    - ブリーフセラピーの理論
    - ブリーフセラピーに基づいた実践
- +
- 心構え・姿勢(職人と科学者)

12

## 「知識・実践＋哲学」の伝達の工夫

13

## 養成形式の違い(長谷川,2007)

### 職人養成形式

- 熟練の専門家(職人・師匠)
- 学ぶ側は少数
- 手探りで修得すべき事柄(型)を探し出して、学び取っていく

### 専門職養成形式

- 教育する側が学習内容を提供
- 一定の型(あるいは枠組み)
- 学ぶ側が型に適合させる
- 学ぶ側に一定の技術を修得してもらう
- 大量に専門家を排出

14

## 対人支援職の姿勢(心構え)との 共通性

- 職人養成形式と専門職養成形式の両者にわたる包括的でかつ柔軟な学び方
- 対人支援職が実際に仕事をしていく上での柔軟性が求められる業務の上での姿勢との共通性

15

## 技法の習得には、哲学や態度を包括した理解が求められる(長谷川,2010)

- 心理学的介入の技法を修得する場合は、技法とそれが成立するまでの過程や背景にある人間観、といった哲学もしくは態度という土台を踏まえて、やっと適切でかつ妥当と思われる専門活動が可能となる。
- 技法の修得を追求することを通して、必然的に哲学や態度をも包括した理解が可能になる。

19

## 試行錯誤体験創造学習スタイル (長谷川,2010)

- ブリーフセラピーの修得過程は、試行錯誤体験創造学習スタイルと呼べそう。
- 私たちは、技法を適用する中で、試行錯誤を繰り返して創造的な体験をしながら背後にある哲学をも修得していく必要がある。
- 認知行動療法は、技法を通じた「知識伝達学習スタイル」と考えられる

20

## 臨場感を伴う研修・訓練

21

## ブリーフセラピーを 修得するための手立て(私案)

- 面接に同席させる
- 催眠誘導を体験する
- 研修会・研究会・学会への参加
  - 講義や研修会の実際と工夫

22

## 面接に同席させる

– 面接室内は常に変化が起きている –

- 実習生・訓練生が、セラピスト・チームの一員として面接場面に居る
  - セラピストとクライアント間の「やりとり」の観察
    - ブリーフセラピー、催眠法、臨床動作法
  - ブレイクの時の話しあい
    - ブリーフセラピー
  - メインセラピストから実習生・訓練生(コ・セラピスト)へ話を振って、対応してもらう
    - ブリーフセラピー、臨床動作法

23

## 催眠誘導を体験する —適切な応答を心掛ける—

- 実習生・訓練生は、催眠誘導を体験する
  - 催眠状態に導く役割
  - 催眠状態を体験する機会
- 催眠は、臨床心理学の中の心理療法だけでなく、心理学が哲学から独立し科学の条件を満たしていく上で、大きな存在を有してきた(略)催眠法を習得することにより、この領域の新たな研究の展開や臨床実践が可能となることが見込まれる(長谷川,2015)。

24

## 研修会・研究会・学会への参加 —様々な学ぶ機会を活かす—

- 実習生・訓練生は、学内外で行われる研修会・研究会への参加を推奨
- 多種多様な専門職との出会いに繋がる
  - モデル(憧れ)となる専門職との出会い
  - 就職の機会に繋がる
- 懇親会の機会での振る舞いを学ぶこと

25

## 講義や研修会の実際と工夫

—ライブ感覚を大切に— (長谷川ら,2015)

1. 概論説明(理論的背景など) **知識**
2. 面接者チームとクライアント(家族)役決め
3. 事例提供(架空事例の場合あり)
4. 面接のデモンストレーション
  - 教員(講師)や受講生が面接者となる場合あり
5. 事例検討/コンサルテーション/ライブ・スーパービジョンを同時に行う **技術・技能**
6. 質疑応答 **姿勢**

26

ご静聴  
ありがとうございました。

27

指定討論

守・破・離

28

## ブリーフセラピストの成長

### 学び始め

- クライアントが専門家=文字通り丸投げの状態
- 知らない姿勢を一生懸命演技している
- 技法にこだわってしまう
- クライアントに関しての理解が直線的認識のよう

### 経験を積むと

- クライアントが専門家であるだけでなく、セラピストも専門家であるという自覚が増す。**体感・実感を伴う。**
- 知らない姿勢をしていることを自覚して振る舞える
- クライアントを「システム」として理解できるようになる
  - 文脈、行為、感情、認識、システムのレベル毎
- 各要素を組合わせた介入

29

## 対人支援職やサービス提供の姿勢 の3タイプ(長谷川,2011)

- 行為者(actor)
- 調整・整理者(arranger)
- 創造者(creator)

30

## 行為者 (actor) (長谷川,2011)

### 対人支援職やサービス提供の姿勢の3タイプ

- 目の前の利用者ではなく自らの頭の中の理論(先人のやってきたこと)に沿って仕事を進める人である。今までに無い新たな相談内容には中々うまく取り組めない。前例が無い、ここは慎重にとつづやきながら、実践家自身のやり方にこだわってしまう。柔軟さを持ち合わせない人である。

31

## 調整・整理者 (arranger) (長谷川,2011)

### 対人支援職やサービス提供の姿勢の3タイプ

- 先人のやってきた仕事(理論)をベースにしなが実践を行う人である。原則は受け身の方法に徹する。積極的な働きかけを回避する。最小限できることは受容と共感に徹するのみの人である。柔軟さの芽生えを感じているものの実行には躊躇している人である。

32

## 創造者 (creator) (長谷川,2011)

### 対人支援職やサービス提供の姿勢の3タイプ

- 先人のやってきた進め方(理論)は勿論、基本に忠実な人である。目の前の利用者に合わせた方法を新しく開発しようとする。専門家としての自覚に基づいて利用者が先々抱える、また利用者が諦めている課題・問題を予測し、利用者にとって必要だと判断した場合は積極的に対応する人である。

33

## 臨床場面で求められる態度 —まとめにかえて—

当たり前すぎる言葉、いわれ続けてきた言葉

- 創意
  - これまでだれも考えつかなかった考え。新しい思いつき。
- 創造
  - それまでなかったものを初めてつくり出すこと。

34

ご静聴  
ありがとうございました。

35

## 文献1/4

- 長谷川明弘 大学院教育に携わって～備忘録を紐解きながら、これからの教育の方向を考える～, 2007, Hearty(金沢工業大学臨床心理センター報), 第3号, pp45-48, : 金沢工業大学臨床心理センター
- 長谷川明弘 パイロットと管制官からまなぶ流儀—対人援助職に関する学び方と心構え—, 2008, Hearty(金沢工業大学臨床心理センター報), 第4号, pp54-55, : 金沢工業大学臨床心理センター

36

## 文献2/4

- 長谷川明弘, ブリーフセラピーの中の「哲学」: 石丸論文へのコメント, 2010, 心理臨床事例研究(愛媛大学心理教育相談室紀要), pp9-10: 愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター心理教育相談室
- 長谷川明弘 生涯にわたって活躍する対人援助職になるために—臨床心理基礎実習での学びを越えた先にある「何か」—, 2011, Hearty(金沢工業大学心理科学研究所年報・金沢工業大学臨床心理センター報), 第7号, pp76-79: 金沢工業大学臨床心理センター

37

## 文献3/4

- 長谷川明弘 対人支援専門職の基礎訓練プログラムの提案—概観そして技能と学習形態を整理する試み— 2014, 東洋英和女学院大学心理相談室紀要17巻, p39-52
- 長谷川明弘 臨床心理学の歴史--催眠を基軸として- 2015, 東洋英和女学院大学心理相談室紀要18巻, p56-66

38

## 文献4/4

- 長谷川明弘・鈴木義也・相模健人・高橋亜耶可・吉田京子・北村文昭 ブリーフセラピーの養成・訓練にみられる「まじわり」～ブリーフセラピーを教える者と教わる者の対話～, 2015, ブリーフセラピーネットワーク— 第17号, pp14-26: ブリーフセラピーネットワークジャパン

※長谷川明弘が解説してるWEB「臨床心理学の扉を開く」からダウンロード可能

39